

**令和4年度第2回都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議  
(みやこねっと) 作業部会 実施報告**

**1. 検討課題**

複合課題のあるケースの支援

**2. めざす仕組み**

本人家族の精神疾患に対し、精神科の医師の協力を得ながら、専門家に相談できる都島区のシステム作り

**3. 構成委員 (☆印 部会長)**

団体名	氏名
都島区医師会	忌部 周 ☆
都島区薬剤師会	横井 裕一
都島区社会福祉協議会	紙屋 なつみ
都島区居宅介護支援事業者連絡会	山田 美香
都島区在宅医療・介護連携相談室	竹下 美代子
都島警察署	山野 剛志
みやこじま訪看ネット	長谷川 泰子
障がい者基幹相談支援センター あるる	樋口 直倫
都島区地域包括支援センター	小林 明美
都島区北部地域包括支援センター	林 智子
都島区北部地域包括支援センター	戸口田 ゆかり
都島区役所〔保健福祉センター〕健康推進担当	坂田 佳代
都島区認知症強化型包括支援センター	市川 秀子
都島区認知症強化型包括支援センター	眞鍋 さよ子

**4. 作業部会実施内容報告****開催日時**

【第9回】 令和4年10月19日(水) 15:00~16:00

【第10回】 令和4年11月30日(水) 14:00~16:00

【第11回】 令和5年1月19日(木) 13:00~14:00

## 実施内容

### 令和4年度「みやこねっと」作業部会報告

#### ① 区事業「医師による精神保健福祉相談」の周知、活用

精神科医師 (助言) 本人家族  
精神福祉相談員 → 支援者

##### 周知方法及び周知先の拡大

担当事業課において新たに作成した周知ビラを、作業部会メンバー所属団体をはじめ、居宅支援事業所連絡会、民生委員協議会、区内3箇所の交番などへ配布、活用方法など説明を行い、周知先の拡大を図った。また区ホームページにも活用促進につながる内容となるよう工夫し掲載した。

##### 相談利用実績

周知の拡大を図ったことにより令和4年6月以降相談が増加。

令和4年度(3月2日時点)で延べ相談件数のうち多職種からの相談件数は10件で、多職種からの相談割合も令和3年度実績より5%増加。地域包括支援センター・見守り相談室・障がい者基幹相談支援センター・相談支援事業所からの相談に加え、新たに訪問看護、ケアマネジャーからの相談も増え職種の広がりが見られた。

→新たに作成した周知ビラにより多職種に対し事業の説明や周知を行った結果、多職種からの相談が増加し、支援者支援につながる効果が得られた。

#### ② 支援者を支援するチーム作り(精神科医師なし)

多職種支援者 (助言) 支援者

##### ネットワーク(MCS)を活用した支援

- ・支援者が支援方針の困りごとを、MCSを使って発信し、多職種からの意見をもらい、支援の行き詰まりなどを解決につなげる仕組みの運用を開始。
- ・医師・薬剤師・看護師・障がい者基幹相談支援センター・地域包括支援センター・居宅介護事業者等で構成。また、ケースの一番身近な相談者であるケアマネジャーの参加を促すため、居宅介護支援事業所連絡会にて主旨の説明及び参加について声かけを行った結果、現在のグループ参加人数は約40名となっている。
- ・運用開始後、ルールの整理を行い、回答者に対して責めない、責任を問わないことを基本とし、事例の相談・情報提供を行う場として活用。

##### 事例を用いた研修会の実施について

- ・多くの支援者が参加できる機会を作り、支援者のスキルアップ及び相談しやすい関係作りを目指し、各団体で実施している専門職向け研修を一覧にし、「都島区専門職向け研修カレンダー」を作成。
  - ・カレンダーは、MCS(【都島区高齢者精神疾患等困りごと共有部屋】)に掲載。各団体で随時更新作業を行い、積極的な参加を呼びかけ、知識習得の機会や支援者同士の繋がりを持つ場として活用。
  - ・MCSの管理、及び「都島区専門職向け研修カレンダー」の更新については、みやこねっとコアメンバーにて継承していく。
- MCSを活用しながら相談や研修に参加し、支援者が相談できる場として今後も有効活用しながら支援者支援を継続していく。